



六角紫水 <肖像画> 1920-20年代 油彩 横濱

小特集
六角紫水
漆工のパイオニア

新収蔵品紹介

広島県立美術館 冬の所蔵作品展

Collection Exhibition
Shisui Rokkaku Collection
Hiroshima's Lacquerware Pioneer
New Collection Artworks,
Donated in 2016

2018(平成30)年
1/2火 ▶ 4/15日

2階 展示室

開館時間: 9:00 - 17:00

※3月31日までの金曜日は19:00まで、
4月1日以後の金曜日は20:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※特別展会期中・祝日・振替休日を除く
※2月26日は、展示替のため所蔵作品展は閉室

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円、
高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円
※()内は20名以上の団体



六角紫水 <縮景園の風景(縮景園) 1920年 油彩 横濱

六角紫水 <大船(大船) 1920年 油彩 横濱

六角紫水 <縮景園の風景(縮景園) 1920年 油彩 横濱

六角紫水 <大船(大船) 1920年 油彩 横濱



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

press release

【概要】

広島県立美術館 冬の所蔵作品展

小特集 六角紫水 広島から飛翔した漆工のパイオニア

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、今年2018年、開館50周年の節目を迎えます。

開館以来、多くの皆さまからご寄贈などのご協力を得て、現在のコレクション総数は約5,000点。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920-30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」を掲げ、特に近代絵画と工芸作品が充実しています。

今年度の所蔵作品展は、コレクションを様々な角度から捉えた企画をとり揃え、4期に分けて開催しています。今期は昨年度(平成28年度)に新たに収集した作品群のお披露目展示に加え、広島県江田島市ゆかりの漆芸家・六角紫水作品を小特集します。当館所蔵作品の数々とともに楽しみください。また、所蔵作品を紹介するミニガイドブックも鑑賞の手引きとしてご利用ください。

何度でも見たい、と言っていただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。この冬、そして来年度の所蔵作品展もどうぞ楽しみに。

【内容】

菅井汲一創作の秘密

このコーナーでは、来年「生誕100年」を迎える菅井汲をご紹介します。戦前からグラフィック・デザイナーとして活躍していた菅井ですが、戦後、商業を目的としない絵を描くことを目指してフランスに渡り、勉強のために通うことにした教室で後に生涯のパートナーとなるファッション・デザイナー、川本光子(菅井光)と知り合います。

彼女が広島出身であったことが縁となり、現在、当館では200点を超える菅井汲の作品を所蔵しています。この中には晩年の代表作をはじめ、素描や試作品、さらには彼がデザインしたトランプといったものまで含まれ、そうした資料からは制作に対する菅井のこだわりが見えてきます。

パリでは、瞬くうちに人気作家の仲間入りを果たした菅井ですが、人気を気にせず理想の表現を追求し続けました。その姿勢は、クレーを思わせる表情豊かな作品から、交通標識を連想させるシンプルな表現まで、彼の作風を次々と変化させていきます。彼の多彩な作風を、制作の背景を感じさせる資料とともに楽しみください。



菅井汲 《黒》 1964年 ブロンズ

press release

西洋美術に見る人物表現

当館では「1920-30年代の美術作品」を収集方針の一つとして掲げています。この時期、欧米では第一次世界大戦の影響や反省から、先進的な芸術運動が数多く生まれました。本展示室では、無意識の世界を表現したシュルレアリスムの代表的作家、サルバドール・ダリの大作《ヴィーナスの夢》をはじめ、西洋美術の優品をご覧ください。

続いて、館蔵品の中から人物を描いた作品に注目し、3人の芸術家の作品を中心に紹介します。1人目は、パリを中心に活動したジョルジュ・ルオー。聖書を題材とした《受難(パッション)》では、作家特有の太い輪郭線、鮮やかな色彩によりキリストや聖人などの姿が描かれています。2人目は、「鉄彫刻の父」と呼ばれるジュリオ・ゴンザレス。キュビズムなど同時代の美術に影響を受け、抽象的・前衛的な表現を用いながら、「鏡の前の女性」という伝統的な主題で人物を構成しました。3人目は、ロシア出身の芸術家エル・リシツキー。オペラ『太陽の征服』に影響を受け、幾何学的な衣装をまとった機械仕掛けの人形たちを描きました。激動の時代において、それぞれの表現を探究した作家たちの世界をお楽しみください。



フランシス・ピカビア 《アンピトリテ》
1935年頃 油彩・画布

戦後日本画の断面

明治以来、西洋の美術思潮に対抗するように発展してきた日本画壇は、戦後の混迷を極める社会において存在意義を問われ、ふたたび岐路に立たされることになりました。

特に1950年代は、岩絵具と水墨による繊細な表現に一区切りがつけられ、油彩画にみるような重厚な表現が好まれることで、表現の幅が格段に広がった時代でした。たとえば、船田玉樹の《残照》は、油彩画風の強い彩色を取り入れて、ありふれた風景を抽象化しました。また、塩出英雄の《婦女図》や《石組》のように、日本画らしい明晰な色彩感覚を大切に、深めていく作品もありました。これらにみる表現の深まりには、いかなる画家であろうとも、画壇を取り巻く状況から全く乖離していたわけではないことをうかがえます。

多くの画家たちは、内に蓄えた思想や技術を起点とし、外から押し寄せてくる価値観と対話しながら、時代に即した日本画を創造していたと言えるでしょう。ここでは、日展・院展という日本画壇の二大勢力を軸とし、戦後の画家たちが生み出した成果の様々をご覧ください。



船田玉樹 《残照》 1956年 紙本彩色

press release

新収蔵品紹介

この展示室では、昨年度、新たに寄贈、寄託いただいた日本洋画と工芸の作品をご紹介します。

広島県呉市出身の南薫造は、明治末期から文展や帝展で活躍した日本の近代洋画史を代表する画家です。油彩画のほか水彩画にも秀で、風景画を中心に伸びやかな作品を残しました。新収蔵の作品は、ヨーロッパやインド、朝鮮半島や中国など海外に取材した水彩を中心に、油絵も含めた全94点。旧蔵品ではやや層の薄かったアジア地域を描いた作品を軸に、画風の変遷をたどりつつ厳選してご紹介します。

さらに、戦前期の広島の前衛美術運動を牽引した山路商、独特の色遣いで知られ、京都で活躍した国盛義篤、女性像を得意とした小早川篤四郎、昭和期に活躍した広島ゆかりの洋画家の作品にもご注目ください。

工芸作品では、広島伝統工芸として知られる高盛絵の技法を用いた鯉城政廣、広島県三原市を拠点に活躍した高中惣六・隆司父子らの漆芸作品、さらには、近代の広島陶芸史を研究する上でも注目されるやきものも新たに収蔵しました。初お披露目のこの機会に、ぜひそれぞれの作品を身近に感じていただければと思います。

小特集 六角紫水

広島から飛翔した漆工のパイオニア

六角紫水(1867-1950)は、現在の広島県江田島市に生まれました。東京美術学校漆工科を第一期生として卒業して以来、生涯を漆に捧げ、東京美術学校(現・東京藝術大学)教授、芸術院会員などを歴任し、近代漆芸史に大きな足跡を残しました。

漆の木は東洋のみに自生し、その樹液は、塗料として美しい光沢を発するのみでなく、耐薬品性・防腐蚀性・抗菌性・接着力などに優れ、高い機能性を有します。漆芸技術は特に日本で発達し、紫水は漆を非常に貴重な天恵の素材として受け止め、「斯道(漆芸)に対する国家的の立場を明らかにして、その学術上、また実技上から探究、制作等の徹底を実験し、宣揚に努める事を終身の努力」としました。

その業績は、古典研究と科学的研究の両輪に支えられ、わが国における漆芸の伝統技法の継承、芸術性の向上や近代化、文化財保護や学術研究、応用範囲の拡大と普及、後進の育成、地場産業や漆樹栽培の奨励など多岐にわたります。

生誕150周年に際し、日本近代漆芸の風雲児・六角紫水の足跡の一端を当館の所蔵及び寄託作品を手がかりに辿ってみましょう。



南 薫造 《自画像3》
1902-07年 油彩・画布



六角紫水 《暁天獅子吼号の図蒔絵手箱》
1930年 漆・蒔絵

press release

ギャラリートーク

「小特集 六角紫水によせて」をテーマに冬の所蔵作品展の見どころをご紹介します。

日時:2018年2月2日(金) 11:00～(45分程度)

場所:2階 展示室

講師:宮本 真希子(当館学芸員)

※ 申込不要、要入館券。会場入り口でお待ちください。

※ 高校生以下、65歳以上の方は無料です。学生証および年齢のわかる証明書をご提示ください。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時:平日14:00~/土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所:2階 展示室

参加料:無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※12/26～1/4は休み。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、
当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで
ご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg (上西宛)または、

iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 藤崎 綾

総務課 広報担当 上西 真由美 一色 直香